

# Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生  
ネットワーク事務局

〒102-0082  
東京都千代田区一番町8番地  
一番町FSビル3階  
財団法人 リバーフロント整備センター内  
Tel: 03-6032-7121  
Fax: 03-6032-7456  
E-mail: info@a-rr.net  
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

## 年始のご挨拶

JRRN 会員の皆様、2009年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれては日頃より JRRN の趣旨に賛同して、ネットワークの活動にご協力いただき感謝申し上げます。

昨年は JRRN の主要な活動として、週2回のニュースメールの発信、月1回のニュースレターの発刊、河川環境ミニ講座の開催、海外からの我が国の河川再生現場の紹介や視察のサポート、そして ARRN (アジア河川・流域再生ネットワーク) 事務局として北京で国際フォーラムの開催、アジアの河川再生のため技術マニュアルの作成作業などを行ってきました。

さて、本年は JRRN が発足して3年目を迎えて、正念場の年になりそうです。

その1つが会員数の拡大です。現在、個人会員を中心に約300名が入会していただいておりますが、この会員数ではまだネットワークのスケールメリットを活かした活動を行うには不十分です。本年はさらにネットワークの意義やメリットをPRしつつ会員数の増をめざしていきたいと考えています。会員の皆様におかれても是非ともご同僚や周辺の方々に JRRN の活動をPRしていただければ幸いです。

もう1つは事務局業務の役割です。ネットワークは本来、会員同士の情報交換の場であり、結果とし

て会員全体のメリットに結びつくものです。このためには会員の自主的な情報提供や活動を行うシステムであるべきで、事務局の役割はこれをサポートすることです。残念ながら現状はほとんどが事務局からの一方的な情報提供の場になっています。本年は JRRN が本来のネットワーク活動ができるシステムとなるように一步一步努力していきたいと考えています。このためには会員の皆様のネットワークへの積極的な関与が必要であり、事務局もネットワークのメリットを理解していただけるような工夫をしていきたいと思っております。

昨年来の国内外の社会情勢は事務局にとっても厳しいものがあります。このため、事務局の運営、体制も見直しが求められています。しかし、これを消極的に捉えるのではなく、このような時こそ、既存の考えやシステムに頼るのではなく新しい流れの芽を見つけて育てていく必要があると思っております。

JRRN は、これらの課題を乗り越えてこれからの河川再生の発展に貢献できるように努力していきますので、本年も皆様のご支援をよろしく願いいたします。

JRRN 事務局長 佐合純造

# 活動報告(1)

## 2008年のARRN/JRRN活動概要報告

2008年のJRRN事務局としての主な活動を振り返ると右表の様に総括できます。

昨年は、JRRNが事務局を担うARRNの諸活動を、これまでの国内から中国に場所を移して開催したことがこれまでにない新たな取り組みでした。この準備過程では中国や韓国関係者との協働の機会が増え、技術交流や親交を更に深めることができました。

また国内では、JRRN主催行事を「河川環境ミニ講座」としてシリーズ化し、国内外の河川環境分野の有識者をお招きしてご講演頂くと共に、その成果をJRRNホームページやニュースレターに蓄積する情報整備の流れが徐々に軌道に乗りつつあります。

2009年も更なる情報循環と双方向の人材交流を目指し様々な活動を企画していききたいと思います。



ワークショップ(1月)



NARBO 総会(1月)



第1回ミニ講座(7月)



韓国河川協会(6月)



河川環境講演会(9月)



韓国市民団体交流(7月)



ARRN 技術委員会(9月)



ARRN 運営会議(11月)

### 2008年のARRN/JRRN事務局の主な活動

活動種類	活動内容
ネットワーク運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 ARRN 情報委員会 (北京・9月)</li> <li>第1回 ARRN 技術委員会 (北京・9月)</li> <li>第3回 ARRN 運営会議 (北京・11月)</li> <li>JRRN 事務局定例会議 (30回以上)</li> </ul>
行事開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川再生に関わるワークショップ「中国の河川再生と河川環境保全」(東京・1月)</li> <li>第1回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流況」(東京・1月)</li> <li>ARRN 河川環境講演会「海外における環境水工学の研究紹介」(東京・9月)</li> <li>第5回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム (北京・11月)</li> <li>第2回 JRRN 河川環境ミニ講座「韓国安養川等の都市河川再生」(東京・12月)</li> </ul>
情報整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>JRRN ホームページ運営 (日本語・英語)</li> <li>JRRN メールマガジン発行 (週2回)</li> <li>JRRN ニュースレター発刊 (月1回)</li> <li>ARRN ニュースレター発刊 (7・12月)</li> <li>ARRN 年次報告書 (年1回)</li> </ul>
技術指針整備	第5回世界水フォーラムに向けた「アジアに適應した河川環境再生の手引き」構築
広報・交流活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際会議・学会等での講演 (2回)               <ul style="list-style-type: none"> <li>第3回 NARBO 総会 (インドネシア) 講演</li> <li>第4回 APHW 国際会議 (中国) 講演</li> </ul> </li> <li>国内外関係機関への PR 活動・意見交換               <ul style="list-style-type: none"> <li>(韓国)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>韓国水生生態復元事業団 (5月)</li> <li>韓国河川協会視察団の来日支援 (6月)</li> <li>健やかな道林川をつくる市民の会 (7月)</li> <li>建設技術研究員 (9月・11月)</li> </ul> </li> <li>(中国)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>中国水利水電科学研究院 (9月・11月)</li> </ul> </li> <li>(台湾)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>逢甲大学 (10月)</li> <li>台湾環境保護署 (11月)</li> <li>台湾水利規則試験所 (12月)</li> </ul> </li> <li>(その他)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>アジア河川流域管理機関ネットワーク NARBO 事務局 (1月)</li> <li>国連東アジア海域環境管理局 PEMSEA 事務局 (1月)</li> <li>英国リーズ大学環境学部研究員 (6月)</li> <li>香港特別行政区土木開発部 (12月)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

(JRRN 事務局 和田彰)

## 活動報告(2)

### 第2回河川環境ミニ講座「韓国安養川等の都市河川再生」開催報告



講師の李参熙 氏

2008年12月10日(水)に、JRRN主催で第2回JRRN河川環境ミニ講座「韓国安養川等の都市河川再生」が開催され、安養(アンヤン)川における事例を中心に、韓国での河川再生の現状や技術的手法・課題などをご講演頂くとともに、参加者との活発な意見交換が行われました。

○講師： 李参熙 氏(韓国建設技術研究院 責任研究員・水原大学校土木工学科兼任教授)

○日時：平成20年12月10日(水) 15:30~17:30

○会場：(財)リバーフロント整備センター

※講演資料や講演録は以下より入手可能です

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/1028.html>



講演会の様子

今回講師にお招きした李参熙氏は、韓国における河川再生分野での数々の功労が認められ、昨年6月に李明博大統領より国民褒章を受章された韓国河川環境分野を代表する研究者です。また、日本との関りも深く、1990年代にはつくばの土木研究所で河川環境技術を学ばれるなど、長年にわたり日韓の河川環境分野での橋渡し役も務められています。



国民褒章受章の様子(奥様のキム夫人と)

講演では、韓国における河川再生の歩みを簡単にご説明頂いた後、都市河川再生の成功事例として韓国で有名な安養(アンヤン)川について、再生事業の概要、適用した技術、生態系回復の状況、また市民参加などについてご説明頂きました。

また講演後に行なわれた約1時間の意見交換では、日韓の河川特性や法制度の違い、事業牽引役の存在の大切さ、また韓国の河川環境管理における行政・市民・企業の関わり等々の話題に及び、日本との類似点や相違点を理解する貴重な機会となりました。

「私の国民褒章受章は、土木研究所の皆様をはじめ、多くの日本の方々のご指導のおかげであり、私だけのものではなく、日本の皆様のものと考えています。この場を借りて厚く御礼申し上げます」

講演の最後に述べられた李先生のお言葉がとても印象的でした。

(JRRN 事務局 和田彰)

## 活動報告(3)

### 「アジアに適応した河川環境再生の手引き」作成に向けた取組み

日中韓の河川環境分野専門家の助言を受けながら、現在 JRRN 事務局が中心となって進めている「アジアに適応した河川環境再生の手引き」作成に向けた取組みと今後の予定を簡単にご紹介させていただきます。

#### 【1】 手引き作成の背景

第4回世界水フォーラム(2006年3月・メキシコ)の自然再生セッションにおいて、国際ネットワークの設立及び河川再生手引き(案)を作成し河川再生技術の向上を図る必要性が提言されました。この提言を受け2006年11月にARRNが設立され、アジア地域の河川・流域再生を目的とした共通手引きの作成をARRNの重要な役割の1つと位置づけ、現在ARRNの事務局を担うJRRNが中心となって「河川環境再生の手引き(案)」の作成を進めています。

#### 【2】 これまでの活動内容

JRRN 設立後の一年間は、共通手引き作成の準備段階として、日本及びアジアや欧米の河川再生に関わる既存の技術指針類(約70種類)の収集を行いました。これら技術指針の中には、既に書籍として販売されているもの、発行組織のホームページ上から入手可能なもの、また作成過程においてホームページ等で公開されているながら現在は入手不可能なもの等が含まれます。引き続き既存技術指針類の収集を行うと共に、紹介可能なものについては、JRRN ホームページを通じてアクセスできる環境整備も進めております。(ガイドラインページ URL は以下参照)



<http://www.a-rr.net/jp/book/guideline/index.html>

また、2008年からは日本・中国・韓国の3ヶ国の専門家で構成される「ARRN 技術委員会」を設立し、共通手引き作成に向けた協議を行いながら、次のような活動を継続中です。

#### ■対象者：

アジア諸国の河川・流域再生に携わる者すべて

#### ■内容：

第3回世界水フォーラム(2002年3月)の『自然再生分科会』において作成されたガイドライン(案)を基本に、アジアの特徴である都市河川再生の視点や事例紹介等を含め内容を拡張する。

#### ■作成体制：

「ARRN 技術委員会」の協議事項を反映しながら、JRRN 事務局がそのとりまとめの役目を担う。

#### 【3】 今後の予定

日本国内及びアジアにおいて河川環境再生の活動に取り組む様々な方々のニーズを満足する「河川再生の手引き」の作成には、当然のことながら長い年月を要します。

よって、JRRN 事務局では、途中途中の成果を JRRN 会員をはじめとする社会に還元しながら、また皆様の多くの意見を反映して、以下の予定でより良い手引きを作成していきたいと考えますので、ご支援とご協力をお願い致します。

- 2009年3月： 第5回世界水フォーラム(トルコ)にて「手引き」中間成果を公表(配布)
- 2009年春頃： JRRN 会員を対象とした上記「手引き」普及のための勉強会を開催(東京)
- 2009年春以降： 引き続き「手引き」充実化

(JRRN 事務局 和田彰)

## 会議・イベント等 (2009年1月)

### (ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■ ARRN/JRRN 主催・共催のイベントはありません。

### (その他の河川再生に関する主なイベント)

■ 落合川の冬鳥たちを見よ〜う！

○日時：2009年1月17日(土) 9:00-11:00

○会場：氷川神社・南沢保全緑地周辺(落合川のこぶし橋に集合)

○主催：東久留米 水辺の生きもの研究会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/1032.html>

■ 平成20年度 川に学ぶ全国事例発表会

○日時：2009年1月23日(金)

○会場：航空会館(東京都港区)

○主催：子どもの水辺サポートセンター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1052.html>

■ 第14回全国水の郷サミット

○日時：2009年1月30日(金)

○会場：国土交通省 地下講堂

○主催：国土交通省

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1053.html>

■ 川でのリスクマネジメントに関する全国フォーラム

○日時：2009年1月31日(土)～2月1日(日)

○会場：渋谷区/ガールスカウト会館

○主催：NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1051.html>

## 冊子・ビデオ等の紹介

■ 都市と河川—世界の「川からの都市再生」(2008.11 発行)

- ・ 編著者：吉川勝秀(JRRN 会員)
- ・ 著者：伊藤一正(ARRN/JRRN 事務局員)
- ・ 出版社：技報堂出版
- ・ 発行年月：2008年11月
- ・ 価格：3,045円(税込)
- ・ ISBN：978-4765517416



本書では、世界における川からの都市再生の先進事例を視覚的に紹介しながら、これからの日本での水辺を軸とした都市再生のあり方について述べられています。都市計画、まちづくりに関する行政・学識者・学生・実務者向けの一冊です。

■ 川の環境目標を考える—川の健康診断(2008.7 発行)

- ・ 監修：中村太士・辻本哲郎・天野邦彦
- ・ 出版社：技報堂出版
- ・ 発行年月：2008年7月
- ・ 価格：2,940円(税込)
- ・ ISBN：978-4-7655-3431-4



本書は、河川環境について、人の健康診断の類推表現を用いながら、その目標を具体的に提示し、今後の河川の保全・再生のあり方について判りやすく解説しています。

# 事務局からのお知らせ(会員募集)

JRRN が設立されて 3 年目を迎えました。活動にご関心のある方、また国内外の河川再生の情報に興味をお持ちの方は、個人または所属団体として是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

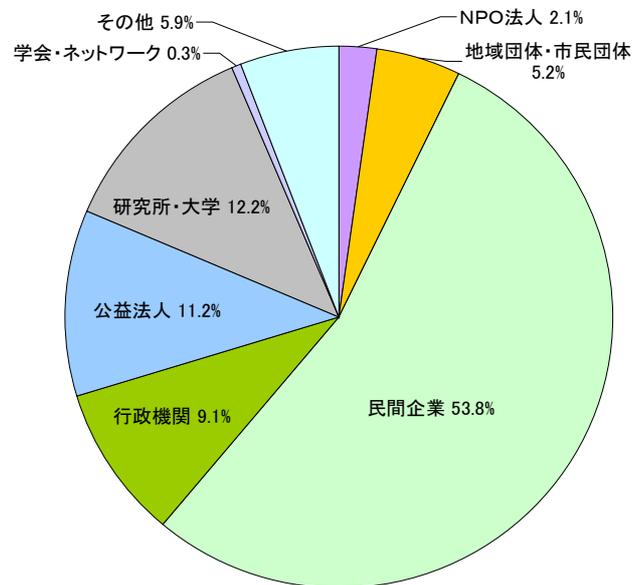
## ■ JRRN の登録資格

JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

## ■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 2 回配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 12 月時点の個人会員構成  
(現在の個人会員数 : 293 名)

## ■ 会員登録方法

### (個人会員)

以下のホームページより会員登録が可能です。

- <http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>

### (団体会員)

組織全体、もしくは支社や部、研究室単位で会員登録が可能です。団体会員の特典や登録方法は以下の資料をご覧ください。

- <http://www.a-rr.net/jp/info/member/register-group.doc>

### 【問い合わせ先】

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局  
財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内  
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル  
Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456  
E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)  
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>